

三水会会報

北里大学水産学部
同窓会会報
第 9 号

昭和60年 2月10日発行

編集者 大野 良 樹

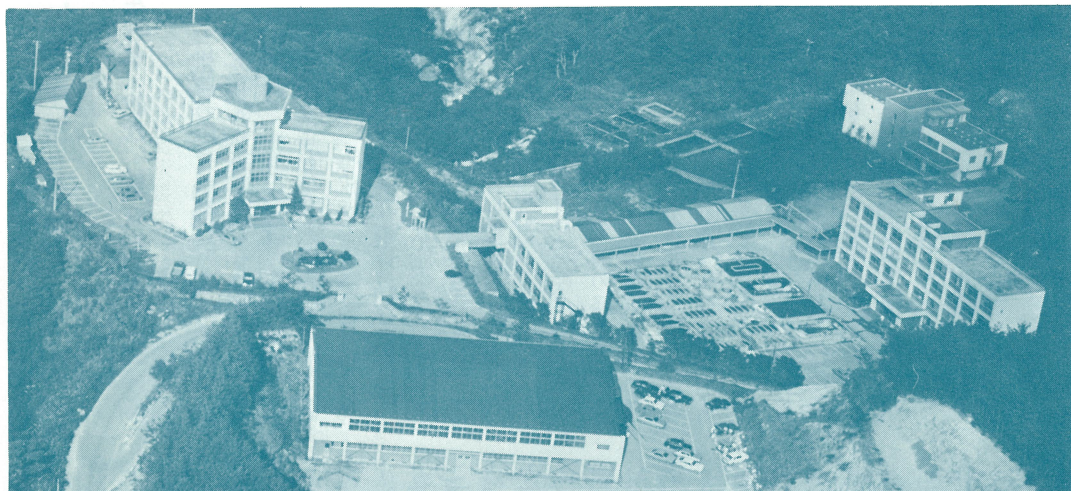
発行 北里大学水産学
部同窓会

(三水会事務局)

〒151 東京都渋谷区大山町17-

17-503 ☎03(465)6569

振替口座 第一勧業銀行大手町
支店 008-1182388



『より多くの三水会会員の目を』

会計監査監事 佐々木 英 生

私が会計監査という役を三水会で頂いて早いもので四年、二期目を勤めるに至っております。監査は会の運営に直接携わる役柄ではありませんのでこれまでを振り返り感じたことを少々述べさせていただきます。

さて、会員の皆さんは年一度会報に掲載されております年度収支決算書又は予算をご覧になられたことがお有りでしょうか。発会一年目において収入実績は二百二十万円近く、実質支出は約百万円、昨年度、昭和五十八年度に致しては収入実績が約二百七十万円、実質支出は二百万円近くと収入は約二十パーセント支出は百パーセントの伸びと四年の間に変遷しました。収入はともかく支出の伸びが百パーセントというのは活動の拡充して来た証しではないかと信ずるものです。尚本年度は様々な改変により収入見込みは四百五十万円近くに達します。貴方の年間収入は如程でしょうか、平均的サラリーマン家庭が一年間生活出来る金額が入り入ります。貴方が同窓会に対して抱いていた概念と実際、金銭面に限って如何なものでしょうか、これは皆さん三水会会員の財産なのです。日頃三水会と皆さんの接点はほとんど会報という一点に絞られると思います。あの二枚のツルリとした紙に印刷を行い二つ折りにしそれをまた幾折りにして封筒に入れて年に二、三度送られて来る、あれで年間二百万円が消費される、そんな法外なと思われるかも知れません。しかし三水会会員は貴方だけではなく現在一千余名を数えるに至っております支出の飛躍の伸びはこれに多く起因しています。一方三水会の活動は会報のみに有らず現役後輩への援助を含め様々に行なわれております。さて、ここまで述べて来たことにより貴方は何か疑問を抱き始めてはいないでしょうかそれは多分に私の文章の拙さであろうと思います。過去総会に於いて決算報告、監査報告、予算承認等の折質疑応答があったことを私は記憶しております。例えどの様な質問が成されようと三水会計理担当理事も私も決して口籠ることなどないでしょう。これまで意味有り気に話を進めて来ましたが貴方は三水会に對する感心をそんな点からでも喚起出来たらと考えたからです。貴方が会報を手にした時、お子さんの幼稚園のバザーのお知らせ程にも感心を示さないこともあるかも知れませんが、これからは年一度数字が並ぶ一ヶ所を凝視してもらいたいです。そこにあるのは貴方の財産でありまたその運用なのです。より効率的な運用が行なわれ皆さんの無形の財産親交というものの維持発展に巧献する様昇華されるべきだと考えます。

学生課四年間のデキゴトロジー(その二)

前学生課長・教授 野村 節 三

今年の秋は三陸の山々も見事な紅葉でしたが、十一月も中ばになると朝夕の冷気に早い冬の訪れを感じさせます。稲作もこの夏の記録的な暑さで冷害から救われ、史上最高の豊作と聞いています。

さて、学生課では昭和五十五年四月に橘高二郎先生が課長に、大場義継先生が課長代理に就任されました。そして、この年は水産学部同窓会にとつては最も記念すべき年となりました。当時、同窓会員も第五期生を加えて七百余名に達し、本会の発展を期して同年五月、名称も「三水会」として発足したことはご存知の通りです。その経緯は既に本会報の創刊号に掲載されていますが、発足当初は規約の起草、諸行事の開催、名簿の作成等、役員諸氏には種々苦勞があったことと思います。

同年七月には太田静行先生が水産学部長に就任され、本学部も充実に向っていましたが、年が明けて間もなく、衆知のように医学部に関連した不祥事が起き、本学はマスコミ

の報道の中で手厳しい批判を受け、水産学部も多少ともその影響を被りました。しかし、これを契機として北里学園全体の体制が見直されることになり、昭和五十六年三月には秦藤樹先生が再度理事長に、そして、本学では初めて、水産学部から松浦文雄先生が学長に就任されて、北里学園も一つの転換期にさしかかりました。

昭和五十七年四月から、私は再び大場先生と共に二年前の経験をふまえて、学生課を兼務することになりましたが、この年は北里大学創立二十周年に当り、同時に水産学部も開設十周年を迎えました。

七月には西山保一先生が理事長に、藤野和男先生が水産学部長に就任されて間もなく、その記念事業の一つとして、「北里大学水産学部十年史」が編纂・発行されました。この十年史を繙くと、本学部草創期の様子や十年間の歩みをつぶさに知ることができます。また本学部の教育と研究の現状や学園生活についても詳しく

述べられ、さらに本学部の特色を生かした将来の方向性も示されています。

続いて、八月一日、三陸キャンパスでは開設十周年記念式典と祝賀会が西山理事長、松浦学長を迎え、各界名士のご列席のもとに盛大に挙行されました。当日は三水会の長屋会長や役員、会員の諸氏も多数列席され、祝賀会では当地方に伝わる「念仏剣舞」や「大漁唄い込み」が地元有志によって披露され、最後に、三水会有志による「水産放浪歌」で締めくくられて、なごやかな内にも意義深い一日が終りました。

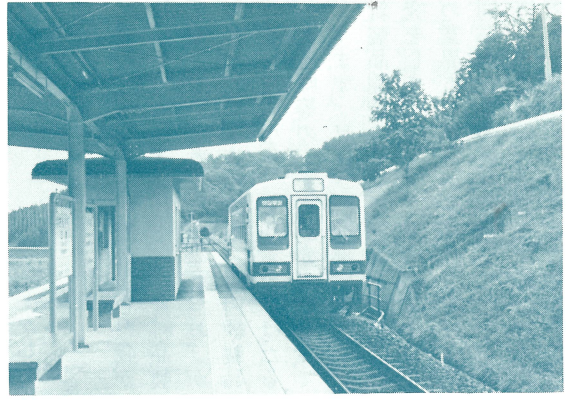
一方、この行事に合わせて、本学創立二十周年記念事業の一環として、同窓会とPPAから、北里柴三郎先生の胸像の外に、全天候式テニスコートをはじめグラウンド諸施設のご寄贈を受け、学生や教職員のスポーツの振興に役立っています。三水会からも図書館充実のために、多額のご寄付を戴き、学生から要望の多い書籍の購入に当てられました。北里先生の胸像は図書館一階ホールに置かれ、先生の偉業を偲ぶよすがとなっています。

丁度その年は待望久しかった東北新幹線が大宮―盛岡間に開通して、

東北自動車道と並んで当地方もようやく高速交通時代に入り、「みちのく」のイメージも年毎に変わろうとしています。

こうした中で、兼ねてから他学部や地域社会との交流の方法が種々模索されてきましたが、その一助として、水産学部の現況を紹介する広報誌の発刊が藤野学部長から提案され、大方の合意を得てその実現に踏切ったわけです。当初は佐藤実、早川康博両先生と私が編集業務に当ることになりました。学部通信としては既に新聞形式の「医学部ニュース」があり、学園としても数種の広報誌が発行されていましたが、それらとはニュアンスの違った体裁や内容が意図されました。しかし、広報誌の編集は委員三名とも初めての経験で、当初は雲をつかむ様な状態でした。とにかく、試行錯誤の中で企画・編集作業に取りかかり、関係者のご協力を得て、翌五十八年三月に「北里大学水産学部だより」の創刊号発行に漕ぎつけ、卒業式当日に配布することができました。

この広報誌は他学部や地域社会との相互理解と情報交換を促進させることを趣旨として、春、秋の年二回発行されています。内容もこの趣旨



地方に大きな災害をもたらした年でもありました。春はとくに気象変化の激しい時期ですが、いわゆる「フエーン現象」は時に大火災の原因になります。

四月二十七日に起きた「東北林野火災」は正にその典型でした。当日は青森、秋田、岩手、宮城、福島県など、ほぼ東北地方全域と石川県まで含めて、三十ヶ所で合計二十一件の山火事が同時に発生しました。とくに県北の久慈市では強風下に飛び火し、多くの民家や漁船まで焼き尽した大火となりました。この広域同時火災は昭和三十六年の「三陸大火」に似ていると言われますが、さらにこれを上回り、焼失面積は四千七百二十二ヘクタール、損害額は四十七億五百万円に達し、異常気象下の山火事がもたらす被害の大きさを改めて知らされたのです。当日は東京から三陸へも心配の問い合わせもありましたが、気仙地方では大船渡附近や吉浜でも発生した山火事は、幸い大火にならずに鎮火しました。

さて、この辺で話題を変えて、「天災は忘れた頃にやってくる」と言われますが、昭和五十八年はこの東北

四月二十七日に起きた「東北林野火災」は正にその典型でした。当日は青森、秋田、岩手、宮城、福島県など、ほぼ東北地方全域と石川県まで含めて、三十ヶ所で合計二十一件の山火事が同時に発生しました。とくに県北の久慈市では強風下に飛び火し、多くの民家や漁船まで焼き尽した大火となりました。この広域同時火災は昭和三十六年の「三陸大火」に似ていると言われますが、さらにこれを上回り、焼失面積は四千七百二十二ヘクタール、損害額は四十七億五百万円に達し、異常気象下の山火事がもたらす被害の大きさを改めて知らされたのです。当日は東京から三陸へも心配の問い合わせもありましたが、気仙地方では大船渡附近や吉浜でも発生した山火事は、幸い大火にならずに鎮火しました。

この林野火災の一ヶ月後の五月二十六日、秋田県沖を震源地とするマグニチュード七・七、震度五の「日本海中部地震」が発生しました。直

接、振動によっては「地盤液化現象」

が見られた程度で、被害は少なかったものの、数十分後に襲来した津波によって、死者三十二名、行方不明者七十名が出たことは、忘れられていた津波に対して大きな警鐘となったのです。津波に全く経験のない世代や、内陸部の人々にとっては突然の悪夢としか言いようのない出来事でしたが、やはり、海底地震のあとには津波が発生するという経験が生かされていれば、貴い人命が失われずに済んだものと惜まれます。三陸ではここ数年何回も小地震を感じますが、過去の経験もあり、地域ぐるみで一層関心が深まっています。

この年は十月に「三宅島の大噴火」が起こり、大量の熔岩で阿古地区が埋没するなど、日本列島に天災が集中した年でした。

十一月には又々三陸に強風が吹き荒れ、崎浜地区では学生アパートの屋根が飛びましたが、大事に至らず幸いでした。

一方、人災の中でも相変わらず深刻な問題は交通事故ですが、昭和五十七年七月一日、当時二年生の井出佳宏君が、大平附近の県道でオートバイによる単独事故を起こし、意識不明のまま数時間後に息をひきとった時は、ご遺族は勿論、三陸キャンパ

スでも大きな衝撃と悲しみに包まれました。

突然の死亡事故で学部ではこの事態が重視され、教職員や学生が中心になって、地元の正源寺で密葬がしめやかに行なわれました。

その後、ご遺族から交通事故の防止に役立たせてほしいと、香典全額のお返しを受け、学生課では交通関係に必要な備品の購入に当てることにしました。

井出君が大船渡病院へ運ばれた時も、輸血が緊急の処置でしたが、水産学部では事故や病気に備えて、以前から献血が行なわれていることは三水会員の多くがご存知と思います。このことは三陸町や岩手県からも高く評価されていますが、本学部の長年に亘るこの献血運動への積極的な協力に對して、昭和五十四年八月に中村岩手県知事から、そして、同五十八年七月には林厚生大臣から感謝状を戴きました。三水会員の在学中の実績が今後も受け継がれてゆくこととしよう。

昨年は北里学園が新体制に入って、事務組織の改変や諸規則の改正が行なわれ、水産学部もこれに同調していくつかの規則や規定が施行されました。中でも北里会では、従来の交

通・救急法・下宿委員会の外に広報委員会が加わり、これらを包含した級友会が発足し、その規約が今年四月に施行されました。

例年、五月に体育祭、十月には漁火祭が開催され、地元との交流も深まっています。

今年四月には第三セクターによる三陸鉄道が久慈―宮古間（北リアス線）と釜石―盛岡（南リアス線）が開通し、斬新な車体が陸中海岸を縫

うように走る様子は当地の新しい点景となっています。

キャンパス内では増加する乗用車に対応して、新駐車場も完成し、一方、今年度の就職状況も順調に延びていますので、三陸の風土で培われた四年生諸君が、社会へ羽ばたく日も遠からずやってきます。

終りに、三水会の益々のご発展と会員諸氏のご健勝をお祈りしてペンを置きます。（昭和五十九年十一月記）

私の職場紹介

かね七株式会社開発部

（食品五十三卒） 西村 哲典

今年、創業百年を迎えました我が社、「かね七株式会社」は、食料品製造業として、煮干し、花かつお、かつおパック、味付海苔、魚肉練製品、カルシウム小魚、そうざい、ほたるいか珍珠等の、製造販売を行なっております。私は、開発部に勤務し、新製品開発の研究や、品質管理の研究をしています。ご承知の通り、この業界も、嗜好の多様化と高度化で、同業他社との競争も激化する中で、既存の伝統的な水産加工品だけでは、発展は望めず、新製品開発、代替食

品開発に、しのぎを削っております。

さて、私の職場は、研究室と、試験室に分かれており、入社して二年間は、試験室で、品質管理の仕事をしておりましたが、今は主に、商品開発の方を行なっています。特に、魚肉練製品として、いわゆる、コピー食品を手がけております。中には、本物と値だんの大差のないものとなり、見事に失敗したものもあります。が、コピー食品は、本物の味わいを伝えると共に、栄養的にも、そして雰囲気的にも、十分対応できるもの

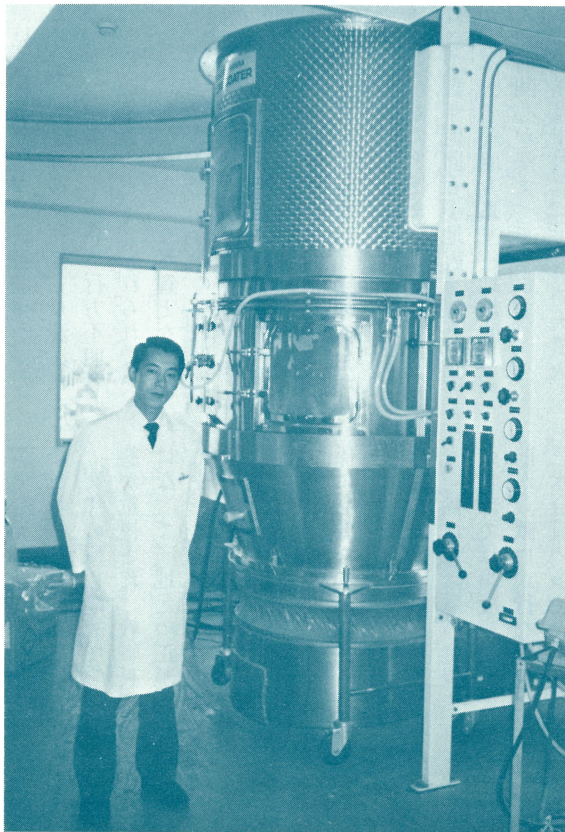
にしてゆかなければならず、これらが、本当の勝負時期になると思います。

又、仲間と共同で取り組んでいるものに、品質管理があります。製品の数や種類も多いので、その一つ一つが品質管理法も違うから、たいへんです。製品のできた時期も違えば、加工の仕方、味も違い、そこで管理方法は、非常に広範囲になっていきます。現在は、マニュアルによって、製品ごとに、管理されているのですが、これをもっと、合理的で、しかも、もっと味と、品質を大切にでき

るシステムを、作りあげたいというテーマです。とても、一朝一夕にできるものではありませんが、ラインごとに整理したり、いろいろ研究中で、今は、とにかく、良い商品を作りあげること、熱中ということろです。

さて、私が住んでおります富山という所について、少しお話ししよう。

富山というと、皆さんはまず最初に、どんなイメージを持たれるでしょうか？ 冬の雪深い、荒狂う、暗い日本海を思い浮かべられる方も多



いと思いますが、確かに一時期そういう季節もあります。しかし、実際の富山は、もっと明るく、美しい所です。海の幸、山の幸にも恵まれ、多くの旧所、名跡もあり、観光地としても、最近、脚光を浴びるようになりしました。中でも、「立山」という三千メートル級の山々が澄み切った青空の中に雄々しく写る様は、まさに、絶景です。

私も結婚し、一児の父親となり、毎日、充実した日々を過ごしておりますが、時折、大学在学中の三陸での思い出を、なつかしく思い、あの頃の自分に戻れたら、と、ふっと思ったりもします。

三水会会報が、皆さんの、コミュニケーションの場として、長く続けていただくようお願いいたします。尚、恐縮ですが、今度、新発売しました、「にぼし純だし」という、製品のコマーシャルをさせていただきます。

主原料は、本場のイワシ煮干を使用し、これを丸ごと微粉末に特殊加工して、更に、そのまま顆粒状にしており、賞味期間も、二年間保証で、高品質であります。

包装は、時代にマッチした、ステイックタイプで使いやすく、保存も

容易で、経済的です。スティック一本（顆粒八ヶ入）で、味噌汁のだしとして、四〜五杯分とれ、天然風味を手軽に楽しめます。

現代人、特に育ち盛りの子供達に不足している、カルシウムや、今、若返りの素として話題を呼んでいる「核酸」が、豊富に含まれており、これらの栄養素を、味噌汁のだしとして、自然に、無理なく、摂取できるように工夫してあります。

お近の店で見かけた際には、是非ためして下さい。



三水会「いも煮会」に参加して

（増殖五十一卒） 富沢 茂 善

東北では秋の川原で行ういも煮会は、全国的に知られている行事の一つです。三水会のいも煮会は、九月九日に東京都秋川市の秋川の川原で開催されました。今回で二回目の開催であり、一回目は雨天の為中止となり、実際には今回が初めての開催ではないかと記憶しています。今回も当日は天候が悪く、小雨が

降たり止んだりの空模様で、いも煮会にはふさわしい天候ではありませんでした。しかし、秋川の川原では役員の方や早く着いた参加者の方々が雨の中で、車の屋根やありあわせの板で借りて来たシートを張り、その下で頭をシートに擦りつけながら順備を行っていました。雨の順備が何もなく雨に濡れながらもくもくと



バーベキューの準備をしているグループもありました。やはり肉や野菜も買ってしまいい川原まで来てしまえば、もう「やるっきゃない！」この感じですよ。特に三水会の役員の方などは、一回目が中止であった為その感は一層強いようでした。

大なべに肉、いも、だいこん、コンニャク等をほうり込みグツグツ煮込み、一袋の味噌と塩で味をつけました。量が多いので大胆な男の味付けでしたが大へんおいしく、最高でした。鉄板では焼肉にフランクフルト、しいたけ、タマネギ、とうもろこし、そして学部特意のニジマス焼いています。生ビールにワインを十分に飲み、夏の終りの川原の快さと、空の下で食べたり飲んだりする、うまさ、を満喫しました。また同級生や友人に会い、学生時代の話しや、同級生の近況などを話したり

+++++

中部・近畿地区懇親会 開催される

昭和五十九年十一月十一日、名古屋栄東急インに於いて、三水会中部・近畿地区懇親会が開催されました。この懇親会は、今年度から新たに企画された、各地方における懇親会シ

楽しくすごすことができました。

私は家族四人（妻・子供二人）で参加しました。子供が小さかったので少し心配でしたが子供達は初めての経験でしたので大変驚いていたようですが、優しいおじさんやおばさんに親切にしてください、たくさん食べたり、飲んだり、川に入ったり、石を投げたり、初体験をいろいろと楽しんだようで、家族四人大へん楽しくすごすことができました。

このように屋外で行なう、いも煮会、バーベキュー等を個人で行なうのはなかなかむずかしく、会員の方やその家族の方々が和気あいあいとした雰囲気の中で一日楽しくすごすことのできた「いも煮会」は、すばらしい企画と思います。役員の方々には大変御苦労をおかけしたと思いますが今後も「いも煮会」を続けていただきたいと思っています。

できる数少ない機会です。お近くで開催される際には、是非ともご参加下さい。

ところで、当日は東京から参加した理事を含めて、二十数名の同窓生が集まりました。久しぶりに会う顔、あるいは初めて会う先輩後輩、それぞれがビールを飲みながら楽しく会談し、新たなコミュニケーションの輪が生まれ、広がってゆきました。



ラグビー部、念願の東北大会に出場

第三十五回全国地区対抗大学ラグビー

大会岩手県予選会決勝に勝利!!

第十一代ラグビー部主将 深井敏行



昭和五十九年十月二十七日、我々北里大学水産学部ラグビー部が、創部十一年目にし初めの東北ラグビー大学に出場を決めた日であった。岩手県予選会決勝戦は盛岡市みたちの県営運動公園ラグビー場で北里大対富士大の間で行なわれた。昨年度の岩手県代表である岩手大学は東北大会で優勝したので、今年度はシードされた。

対富士大戦は、両校とも東北大会初出場をかけた試合であったので、

試合開始早々から激しい「あたり」「タックル」が繰り返された。前半、風上にたった我々はキックを多用し相手陣内に攻めこみ、前半八分にスクラムからトライを決め、十七分にもバックスでトライをすることができた。後半も十五分、二十二分、三十分とトライを決め、結局二十四で富士大学に勝って東北大会の切符を手に入れることができた。

我々ラグビー部は、高校時代ラグビー経験者が五名しかおらず、他の部員は三陸に來てからラグビーを始めた者ばかりである。また部員数は十九名であるから、やつとチームが

「第十二回漁火祭を終えて」

漁火祭実行委員長 古澤 強

三陸の秋涼と海には漁火の灯が輝やく季節の下で、第十二回漁火祭が十月二十七日・二十八日の両日にわたって開催されました。

今回のそれには実行委員一同の企画をとり入れ、大いに盛り上げようとの案を反映してか、そのメインテーマも「ときめきの WANDER LAND」と一風変わったものと銘打

組める状態である。前期にはもう少し部員もいたが、練習がきついため数名が退部した。しかし今はとても良い雰囲気になり、部員全員で手にした岩手県代表であった。

東北大会は福島県郡山市で十一月八日から行なわれた。第一回戦で福島県代表の日本大学工学部と対戦したが、技術などかなうわけがなく、七十八対〇で完敗した。しかし我々ラグビー部にとっては、十一年目で初の東北大会に出場できたのを期に、これからも一歩一歩前に歩いていきたいと思っています。

って企画されました。

二十七日に行なわれた大漁踊りですが、開会式最中も雨がちらつき心配された天候の方も、水産男児の意気込みが天に届いたのか、何とか持ちなおし、釜石市、大船渡市、盛、三陸町において多数の人々の注目を集め北里大学水産学部ここにありと大いに咆哮して第一日目を盛り上げ

ました。

威勢のよい掛け声と共に崎浜から大学に向けて練り歩いた。こしに始まった二十八日にはいよいよ本祭本番と各展示や企画、模擬店の立ち並び学内にぞくぞくと詰めかけて下さる御客様で、正午にはすでに志学荘に設けられた駐車場も満車となるうれしい悲鳴を上げたものでした。

新企画として我々実行委員の考えた事は、まず一人でも多くの学生に、市民に漁火祭をPRし参加してもらうことでした。そのためには三陸駅から大学への直通バスを出し交通の便宜をはかったり、テレビニュースのインフォメーションでPRしてもらい、効果をかった事なども学祭への動員数の増加にもつながったと思います。

本部企画としては、バザーで中古品のオークションをはじめ、好評だった宝くじ抽選会、記念キーホルダーの販売、映画「パンツの穴」「牡丹燈楼」の上映でしたが、何よりも各団体の展示や、軽音楽部のコンサートなど大いに学祭を盛り上げてくれました。

ともあれ全体的に見た成果を考えれば、成功を納めたと言えましょう。一番の問題であった水産学部の特徴

を生かした展示も数々見られました。が、例年の反省点となるのが、学生参加数の減少です。

これに関しては、物事に対する学生個人の主体的な取り組み方次第だと思います。中国の諺にもある様に、「川へ牛を水を飲ませるために連れ



てゆくのは人間の役目。牛が水を飲むか飲まないかは牛自身の問題だ。」とあります。学園祭が学生の積極性を反映していると言っても過言ではないと考えます。

学祭実行委員会の発足から五ヶ月の準備期間を経て開催までこぎつけ



たわけですが、その足どりは必ずしも容易なものとはいえないものでした。と言いますのは、委員会組織に参加する学生の招集と、その組織の位置づけです。企画運営の上でもその位置づけは明らかなものとすべきだと考えました。

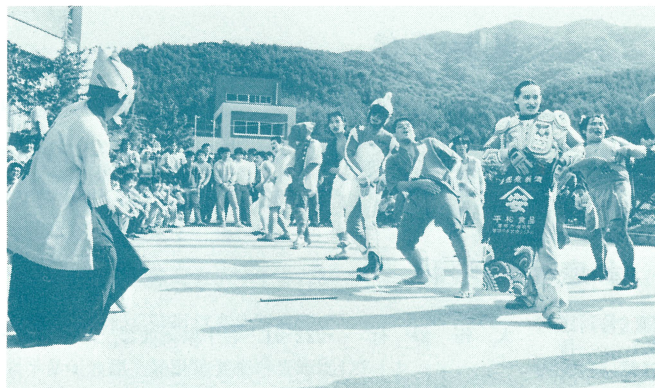




以上ふまえてまして簡略ですが、第十二回漁火祭の感想と反省とさせていただきます、この誌上をお借りして、この運営に御協力下さった教職員の皆様、そしてこれらを支えて下さったOBの皆様、三水会の皆様、地元各位、学生諸兄その他の方々、深く感謝し、心より御礼を申し述べまして筆を置くことといたします。

第二回三陸杯ゴルフコンペ開催さる

十二月二日、栃木県下のゴルフ場において、第二回三陸杯ゴルフコンペが開催されました。今回は、元助教の渡辺翼先生も出場され、和気あいあいの雰囲気の中、旧交を暖めあいました。このコンペは今後もしき続き開催される予定ですので、



三水会事務局移転のお知らせ

三水会事務局が、左記の住所へ移転いたしました。三水会に関するお問い合わせ、ご連絡はこちらへお願いいたします。留守番電話も在りますので、常時連絡がとれます。

〒151 東京都渋谷区

大山町一七一七―五〇三

三水会事務局

Tel 〇三―四六五―六五六九

出場を希望する方は左記へ御連絡下さい。

〒359

埼玉県所沢市上安松五七四―一〇

Tel 〇四二九―九五―四六八七

田村 治

「水産学部教職員名簿」

水産学部長 教授	藤野 和 男	022	大船渡市立根町字萱中157-1	0192(27)7034
-------------	--------	-----	-----------------	--------------

水産増殖学科

水産増殖学科長 教授	橘 高 二 郎	022-01	岩手県気仙郡三陸町越喜来字明神道16 教員宿舎 2 号	0192(44)3194
---------------	---------	--------	-----------------------------	--------------

環境・生態学

教 授	井 田 斉	022-01	岩手県気仙郡三陸町越喜来字明神道16 教員宿舎 8 号	0192(44)3148
-----	-------	--------	-----------------------------	--------------

講 師	早 川 康 博	022	大船渡市盛町字館下12- 2	0192(27)1062
-----	---------	-----	----------------	--------------

魚 類 生 理 学

教 授	藤 野 和 男	022	大船渡市立根町字萱中157- 1	0192(27)7034
助 教 授	山 森 邦 夫	022-01	岩手県気仙郡三陸町越喜来字杉下124 教員宿舎303号	0192(44)3116
助 手	荒 井 克 俊	022-01	岩手県気仙郡三陸町越喜来字明神道16 教員宿舎10号	0192(44)3232

水 族 病 理 学

教 授	小 林 正 典	022-01	岩手県気仙郡三陸町越喜来字杉下124 教員宿舎102号	0192(44)3168
講 師	厚 田 静 男	022-01	岩手県気仙郡三陸町越喜来字明神道16 教員宿舎15号	0192(44)3158

水 産 増 殖 学

教 授	橘 高 二 郎	022-01	岩手県気仙郡三陸町越喜来字明神道16 教員宿舎 2 号	0192(44)3194
助 教 授	鈴 木 敬 二	022-01	岩手県気仙郡三陸町越喜来字杉下124 教員宿舎202号	0192(44)2388
助 手	加 戸 隆 介	022-01	岩手県気仙郡三陸町越喜来字明神道16 教員宿舎12号	0192(44)3280

水 産 食 品 学 科

水産食品学科長 教 授	太 田 静 行	022-01	岩手県気仙郡三陸町越喜来字明神道16 教員宿舎 1 号	0192(44)2804
----------------	---------	--------	-----------------------------	--------------

水 産 食 品 学

教 授	佐 藤 美 和	022-01	岩手県気仙郡三陸町越喜来字杉下124 教員宿舎304号	0192(44)3155
助 教 授	佐 藤 実	022-01	岩手県気仙郡三陸町越喜来字杉下124 教員宿舎204号	0192(44)3163
助 手	菅 野 信 弘	022-01	岩手県気仙郡三陸町越喜来字明神道16 教員宿舎 6 号	

水 産 生 物 化 学

教 授	松 浦 文 雄	359	所沢市榎町18- 7	0429(39)8807
教 授	児 玉 正 昭	022-01	岩手県気仙郡三陸町越喜来字杉下124 教員宿舎301号	0192(44)3120
講 師	緒 方 武比古	022-01	岩手県気仙郡三陸町越喜来字杉下124 教員宿舎101号	0192(44)3126
助 手	佐 藤 繁	022-01	岩手県気仙郡三陸町越喜来字明神道16 教員宿舎11号	

水 産 利 用 学

教 授	太 田 静 行	022-01	岩手県気仙郡三陸町越喜来字明神道16 教員宿舎 1 号	0192(44)2804
同	川 内 浩 司	022-01	岩手県気仙郡三陸町越喜来字杉下124 教員宿舎302号	0192(44)2389
講 師	日 下 兵 爾	022-01	岩手県気仙郡三陸町越喜来字浪板22- 7	0192(44)3064

水 産 衛 生 学

学 生 課 長 教 授	神 谷 久 男	022-01	岩手県気仙郡三陸町越喜来字杉下124 教員宿舎201号	0192(44)2724
助 教 授	村 本 光 二	022-01	岩手県気仙郡三陸町越喜来字杉下124 教員宿舎104号	0192(44)3261

水産微生物学

教授	野村 節三	022-01	岩手県気仙郡三陸町越喜来字杉下67-5	0192(44)3123
講師	長林 俊彦	022	大船渡市大船渡町字地ノ森41-2	0192(27)9023

一般教養

講師	大場 義継	022	大船渡市大船渡町字台16-15	0192(27)6469
----	-------	-----	-----------------	--------------

教職課程

教授	橋本 三太郎	036	弘前市弘前市大字八幡町1-4-1	0172(33)1472
----	--------	-----	------------------	--------------

水産学部事務室

事務長	外山 智章	022-01	岩手県気仙郡三陸町越喜来字前田64-8	0192(44)3074
総務課長				
学生課長(教授)	神谷 久男	022-01	岩手県気仙郡三陸町越喜来字杉下124 教員宿舍201号	0192(44)2724
学生課長(代理講師)	大場 義継	022	大船渡市大船渡町字台16-15	0192(27)6469
係長	千葉 信夫	022-01	岩手県気仙郡三陸町吉浜字千歳223	0192(45)2630
	中嶋 勇喜	022-01	岩手県気仙郡三陸町越喜来字烏頭1	0192(44)3021
	遠藤 隆雄	022-01	岩手県気仙郡三陸町越喜来字東崎浜127-1	0192(44)3213
	藤澤 節子	022-02	岩手県気仙郡三陸町綾里字野形1-5	0192(42)3012
	掛川 法泉	022-01	岩手県気仙郡三陸町越喜来字仲崎浜77	0192(44)2784
	佐川 由美子	022-01	岩手県気仙郡三陸町越喜来字泊147-2	0192(44)2413
	東 みよ子	022-02	岩手県気仙郡三陸町綾里字港85-5	0192(42)2359
	中野 真知子	022-01	岩手県気仙郡三陸町越喜来字明神道24	0192(44)2809
	熊谷 テイ子	022-02	岩手県気仙郡三陸町綾里字館3	0192(42)2361
	野間 松子	022-01	岩手県気仙郡三陸町吉浜字上野49-2	0192(45)2331

水産学部図書館

米田 七重	022	大船渡市立根町中野45-5 菅生団地31	0192(27)9417
刈谷 勝子	022-01	岩手県気仙郡三陸町越喜来字杉下68-4	0192(44)3084
及川 よつ子	022-01	岩手県気仙郡三陸町越喜来字所通21-14	0192(44)2534
佐藤 絹子	022-02	岩手県気仙郡三陸町綾里字黒土田100-4	0192(42)3177

水産学部技術職員

水産食品学科

水産衛生学	緒方 京子	022-01	岩手県気仙郡三陸町越喜来字杉下124 教員宿舍101号	0192(44)3126
-------	-------	--------	-----------------------------	--------------

水産学部補助員

水産増殖学科

環境・生態学	熊谷 恵子	022-01	岩手県気仙郡三陸町越喜来字前田 7	0192(44)2506
水族病理学	菊地 晴美	022-01	岩手県気仙郡三陸町越喜来字肥ノ田87-2	0192(44)2657

水産食品学科

水産食品学	佐藤 美津子	022-01	岩手県気仙郡三陸町綾里字宮野 9-2	0192(42)2483
-------	--------	--------	--------------------	--------------

水産学部只見養魚場

場長 (教授)	小林 正典	022-01	岩手県気仙郡三陸町越喜来字杉下124 教員宿舎102号	0192(44)3168
技術職員	河村 宗郎	968-04	福島県南会津郡只見字沖下 町営住宅29	02418(2)2756
	荒井 重弘	968-04	福島県南会津郡只見町大字只見字町下2590	02418(2)2516

旧職員

土屋 靖彦 教授(水産食品学) ～1974年3月

〒981-31 宮城県泉市野村一本杉6-2

下村 敏正 教授(環境生態学) ～1983年3月

〒254 神奈川県平塚市田村6379-2

渡辺 翼 助教授(水族病理学) ～1982年3月

日本大学農獣医学部農獣医学科魚病学研究室

〒252 神奈川県藤沢市亀井野1866 TEL 0466-81-6241(代)

平山 寿哉 助手(水産食品学) ～1975年3月

東京大学医科学研究所細菌感染研究部門

〒108 東京都港区白金台4-6-1 TEL 03-443-8111(代)

室伏 誠 助手(魚類生理学) ～1978年3月

日本大学短期大学部生理学研究室

〒411 静岡県三島市文教町2丁目 TEL 0559-86-5500(代)

福代 康夫 助手(水産増殖学) ～1982年12月

東京大学農学部水産学科海洋学講座

〒113 東京都文京区弥生1-1-1 TEL 03-812-2111(内)5291

斉藤 博司 助手(水産微生物学) ～1984年3月

斉藤動物病院

〒066 北海道千歳市白樺5-1-7 TEL 01232-8-3592